

学校教育目標	自・他を大切にし、心豊かに輝く子供の育成		
a ミッション	「オール因島南」で取り組む地域に誇れる学校づくりの実現 ・ 国語科の授業改善を中心とした学力向上 ・ 自己肯定感を向上させる積極的な生徒指導の推進	a ビジョン	「因島南小学校で学んでよかった」と感じる日本一の小学校の創造 最幸の学校に」 ・ 自・他を大切にできる学校 ・ 「静と動」の切り替えができる学校 ・ 地域とともに歩む学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画				
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成率	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			m 改善案		
					を達成	を達成				イ	ロ	ハ			
学びの基礎・基本の充実 基礎・基本の徹底と定着 学びに向かう姿勢の醸成 学校で学びたい 学校へ行きたい！ 自己肯定感の向上 生活の基礎・基本の充実	基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力の向上 元気に学習を進めるための土台を作る。 【保健体育部】 学びに向かうための外遊びの充実 ・ 週に1回以上の外遊びを奨励	6年間安定して学ぶ授業スタイルを作る。 【教育研究部担当】 ○書く力を高める国語科の授業改善 ・ 因島南小授業スタイルの確立 ○国語科、学期のまとめテストにおける思考・判断・表現の平均得点率 ・ 80%以上	80%	69.0%	86.3%	B	・ 国語科を中心に授業改善に取り組んできた。自分の考えを書くことが出来る児童が増え、それぞれの考えを交流することが楽しいと感じている児童も増えてきている。しかし、まだこれらの力がテストの結果にはつながらないことが課題である。 ・ 各学級で係を活用した全員遊びを企画する等、外遊びを促す取組みを進めた。1学期後半は、外遊びでは帽子をかぶるよう指導したが、熱中症対策として外遊びを禁止したこともあり、外遊びができる児童の割合が低下した。	・ 「自分の考えを書くこと」「それぞれの考えを交流することが楽しいと感じる」児童が増えてきているという指導者の見取りに対して「これらの力がテストの結果にはつながらない」というのは、何故なのか？指導者の見取りが反映される評価指標であるように、方策と評価指標の整合性を考え直してはどうでしょうか？「書く」ことにこだわり、授業改善に取り組み、児童の書く力が向上することに期待する。 ・ 学期のまとめテストでは、各学年で得点率のばらつきが見られますが、考えの交流や助け合う時間をもっと作り続けて欲しい。 ・ 課題が明確にされているので、それにつきとせよう。	・ 熱中症対策が必要な上半期の取り組みは大変だったと思う。コロナ禍はしばらく続くと思われるが、時候の好くなるこれからの時期、外遊びの歓喜の音が聞かれることに期待する。 ・ 常に迅速な判断と対応が求められるが、児童が元気いっぱい遊べる（学べる）環境を企画して欲しい。 ・ 長い残暑になりそうなので、無理なく進めて欲しい。	・ 引き続き、「書く」ことにこだわり、授業改善に取り組む。特に、児童が自分の考えを明瞭に交流したりする際には、その根拠となる叙述を明らかにさせることで、互いの考えを広げたり深めたりさせる。日常的に叙述と関連付けて考えさせることで、評価テストにおいても、問われている内容の根拠を適切に取り出す力も高まると考える。 ・ 2学期からは涼しくなり次第、体育委員会と連携しながら、外遊びを促す取組みを企画する。					
		【静と動】を基盤とした学校生活を送る。 【生徒指導部】 ○規律ある集団生活を送るための取組 ・ 無言掃除の推進 ○無言掃除ができたと答える児童の割合 ・ 85%以上	85%	97.1%	114.2%	A					・ 児童アンケートの結果、約9割以上の児童が無言掃除ができたと回答している。児童会と連携し、毎月無言掃除の表彰をしたり、無言掃除によりよく取り組むことができるように、イベントを企画したりしたことが結果につながっている。児童も、学校全体で無言掃除を頑張っているという意識が高まってきている。無言で掃除をすることは、ほぼできていたが、時間いっぱい隅々まで掃除に取り組むなど、掃除内容の質には課題が残っている。 ・ 学校の自覚も高まり良い結果が出ているが、目標値の上方修正も可能であろうと思う。さらなる児童への無言掃除の質の向上と定着に期待する。 ・ 今までの取組みが定着し、児童の意識付けも高く評価する。課題として挙げている質について効果的に取り組んで欲しい。	・ コロナ禍の現状では、児童の自覚も高まり良い結果が出ているが、目標値の上方修正も可能であろうと思う。さらなる児童への無言掃除の質の向上と定着に期待する。 ・ 今までの取組みが定着し、児童の意識付けも高く評価する。課題として挙げている質について効果的に取り組んで欲しい。	・ 引き続き、表彰や無言掃除バッジ等による肯定的評価、イベントの企画等を実行し、無言掃除の質を高めたい。		
		毎日登校するための目標を与える。 【教務部】 ○登校意欲を高めるための取組 ・ 毎月皆勤賞による表彰を実施 ○皆勤児童の割合 ・ 80%以上	80%	84.0%	105.0%	A								・ 毎月の皆勤児童の割合は、80%を超えている。毎月の皆勤児童を学級で紹介・掲示をしたり、1学期皆勤児童には賞状を授与したりするなどした。登校意欲を高めるための取組みを、皆勤児童の表彰が実施することができなかった。 ・ 学校へ来ることに何か一つ目的ももて、登校することに楽しみをもてる取組が登校への意欲づけになることに期待する。 ・ 昨年度に比べると数値がかなり良くなってきている。児童に学校の楽しさが十分伝わっていると感じた。 ・ 表彰される（首の筋でほめられる）ということが大変よいと思う。	・ 2学期は、児童会と連携して、全児童が係ることができるレクリエーション企画を実行し、登校への更なる意欲付けにつなげる。
		業務改善を推進する。 【教務部】 ○時間外勤務が45時間以下で教職員が割合75%以上 ・ 提出物等の締め切りを明確にし、見通しがもてる業務の実施 ○時間外勤務が45時間以下で教職員の割合 ・ 75%以上	75%	96.7%	128.9%	A									

【自己評価 評価】
 A：100≦（目標達成）
 B：80≦（ほぼ達成）＜100
 C：60≦（もう少し）＜80
 D：（できていない）＜60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。